
ありまつ中心家守会社

報告書

目次

- ①人材発掘・育成事業
- ②地域共創シンポジウムにおける成果報告
- ③人材育成のためのカリキュラム作成

人材発掘・育成事業

まちづくりリーダー育成と共創による 回遊性向上プロジェクト

①人材発掘・育成事業

2024年2月

合同会社ありまつ中心家守会社

事業の目的・展開方針

- 共創（連携）による発信力強化
- 人を呼び込む好循環への転換
- 交通まちづくり人材の育成

↓ 有松での展開方針 ↓

- ①交通まちづくりに関する課題整理
- ②関係する団体・企業との共創（連携）
に向けての意見交換
- ③今後の事業展開に向けた検討

①交通まちづくりに関する課題整理

- 2023年10月11日
ヴァンタンヴィーナスアカデミー（インフルエンサーコース）の学生による
モニターツアー（名鉄キャンペーン「秋の有松めぐり」）
- 2023年10月20日
名古屋デザイナー学院（グラフィックデザインコース）「地域とデザイン」授業
→2024年1月19日 学生からの提案発表

- 2023年10月11日
ヴァンタンヴィーナスアカデミー（インフルエンサーコース）の学生による
モニターツアー（名鉄キャンペーン「秋の有松めぐり」）

専門学校の学生たちが名鉄キャンペーン「秋の有松めぐり」工房体験きっぷを利用して有松を訪ね、有松絞りの体験やまちあるきを行い、若い世代から見た有松の魅力を発信するとともに、今後の可能性について意見聴取

【参加人数】5名

【主な意見】

- ・有松絞りの体験は、実際に自分でやってみるとその面白さが実感できる
- ・来てみるまで有松のことをよく知らなかった
- ・やはり、食べ物の充実が不可欠
- ・有松だけだと、1日もたない



■ 2023年10月20日

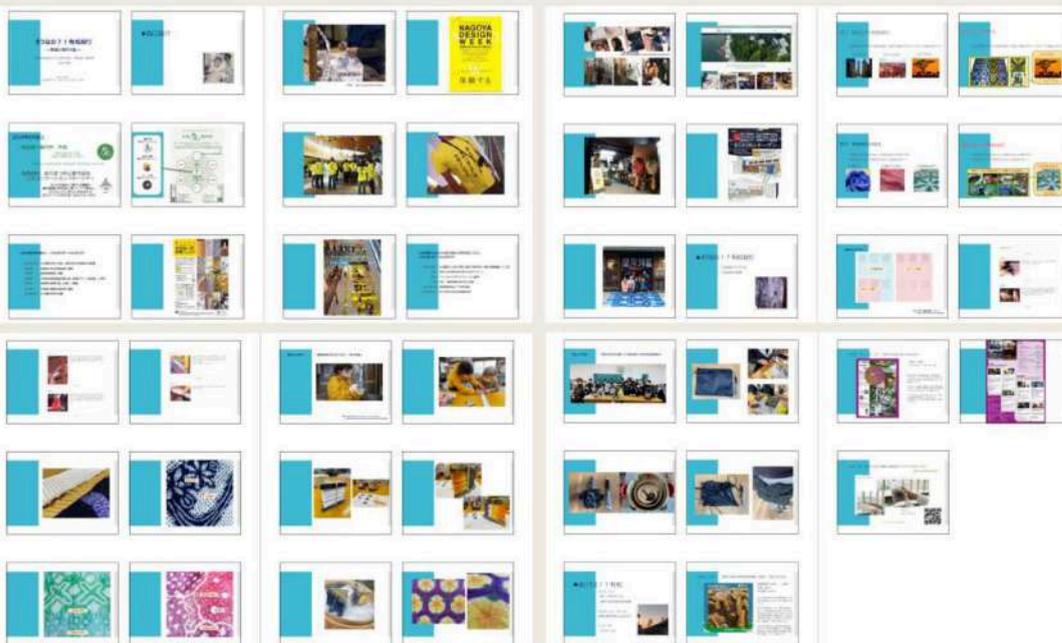
名古屋デザイナー学院（グラフィックデザインコース）「地域とデザイン」授業

専門学校の「地域とデザイン」について考える授業のテーマに有松を取り上げ、オンライン授業で有松のことを説明した後、学生たちが個別に有松を訪ね、さまざまなデザイン技法を用いて有松の魅力を発信する方法を提案

【参加人数】10名

【主な意見】

- ・ 事前に話を聞いていたので、有松のまちをより深く見て回ることができた
- ・ 有松を訪問する最初の場が有松駅なので、周辺を含めた情報を得られるといい
- ・ 駅前の風景の対比（旧東海道と大型ショッピングセンター）が面白い
- ・ 観光地でもあり、住宅地（生活の場）でもある



②関係する団体・企業との共創（連携） に向けての意見交換

- 2023年12月28日
桜花学園大学観光総合研究所所長との意見交換
緑区長・地域力推進室との意見交換
- 2024年1月29日
名古屋市観光文化交流局観光推進課・名古屋鉄道との意見交換
- 2024年2月13日
シェアサイクル事業社との意見交換

- 2023年12月28日
桜花学園大学観光総合研究所所長との意見交換

旅行代理店での勤務経験があり、有松でのイベントにも学生とともにボランティアとして参画する桜花学園大学学芸学部英語学科教授・観光総合研究所所長の根尾文彦氏と意見交換。

【主な意見】

- ・ 伝統的建造物群保存地区であり日本遺産となっている長野県の妻籠は、この秋の外国人観光客がコロナ前の水準まで戻っている
- ・ 地元の人がお茶などをもてなす東屋に来訪者アンケートを設置して、観光客の実態を把握している
- ・ 外国人観光客は、団体ではなく個人旅行が多く、公共交通機関をうまく利用しながら滞在する傾向がある



- 2023年12月28日
緑区長・地域力推進室との意見交換

「緑区観光推進協議会」は、緑区内の商工会・絞組合・交通事業者（名古屋市交通局・名鉄・JR東海）・JA・市民団体・公的機関などが協力しあい、緑区をおもてなしの心にあふれ魅力ある観光地域として発展させることにより、観光客の来訪及び滞在を促進し、「地域観光」の推進を図ることを目的に、平成22年5月に発足。

今後の可能性について意見聴取

【主な意見】

- ・地域をつなげることができるのが、区役所の強み
- ・協議会が事務局（区役所）が提案する事業案を承認するのが現状
- ・地域からの声を吸い上げて、提案をまとめていくようなワーキンググループのような存在が必要と認識

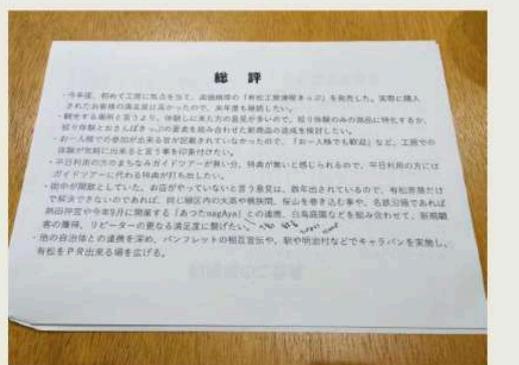


- 2024年1月29日
名古屋市観光文化交流局観光推進課・名古屋鉄道との意見交換

昨秋に実施した名鉄キャンペーン「秋の有松めぐり」の実施結果について、名古屋市観光推進課観光プロモーション係長の松川紀章氏、名古屋鉄道株式会社鉄道事業本部旅客営業部営業企画課長の森田哲朗氏、今年度の受託業者であるJR東日本株式会社、運営協力した有松絞商工協同組合と、来年度の展開にむけて意見交換

【主な意見】

- ・今年初めて展開した「工房満喫きっぷ」が、これまでの商品より高額だったが想定よりも利用が多かった
- ・絞り体験自体の満足度は非常に高いが、町中が閑散としている印象あり
- ・有松だけでなく同じ緑区内の大高や桶狭間との周遊も検討すべき



■ 2024年2月13日

シェアサイクル事業社との意見交換

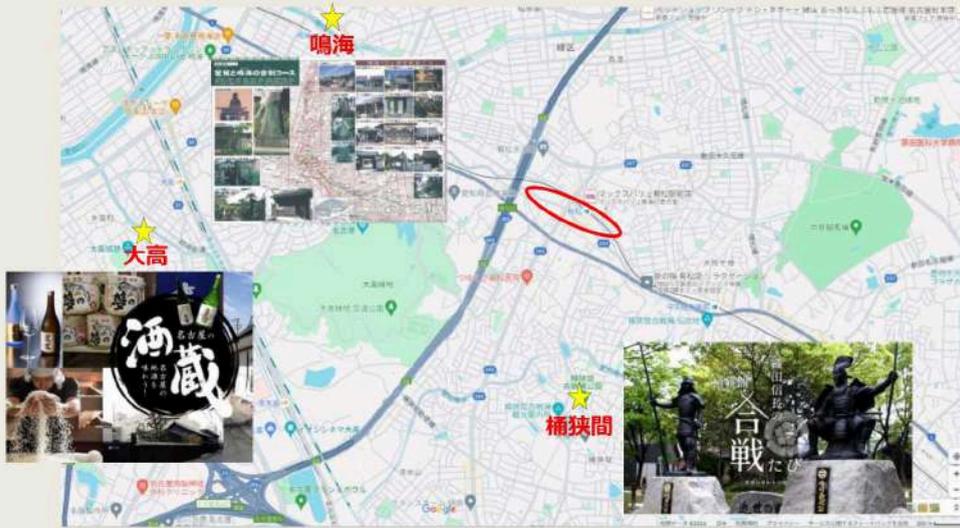
「チャリチャリ」を運営するneuet株式会社の田口大輔氏、「ハローサイクリング」を運営する株式会社エネファントの西尾拓哉氏が有松を訪問。実施にまちを歩きながら、今後の可能性について意見聴取

【主な意見】

- ・「チャリチャリ」の桑名での期間限定の展開は、来春からの本格導入が前提
- ・社会実験的に行うには、行政や地域からの支援が不可欠
- ・softbank系の既存システムを使う「ハローサイクリング」の方が、期間限定で展開するためのコストが低い（「チャリチャリ」は、地域が増えると独自の運営システムを構築することが必要）
- ・「ハローサイクリング」は、支払い方法がクレジットカードだけでなく、PayPayや交通系ICも可能



ポート設置候補エリア



③今後の事業展開に向けた検討

- 有松を起点とした公共交通機関の現状を把握
- 自転車をを用いて移動できる時間別距離を分析
- 緑区観光推進協議会や名鉄などとの定期的な意見交換・課題整理

有松の地域交通課題

緑区内の公共交通機関
の結節点がない

- 地下鉄「鳴子北駅」「徳重駅」
- 名鉄「有松駅」「鳴海駅」
- JR東海「大高駅」「南大高駅」

↓
代替機能を発揮できない
回遊性を生み出せない



有松の地域交通課題

JR線に向かう有松からの市バス路線が少ない

緑区巡回

徒歩で平部⇄大高駅・南大高駅

名鉄で鳴海駅⇄大高駅・南大高駅



駅前にレンタカーがない

有松駅：なし

鳴海駅：タイムズカーシェア

大高駅：タイムズカーシェア

南大高駅：なし



課題解決に向けた取り組みの方向性

コインパーキングを活用した
公共交通機関をつなぐ
新たなモビリティの導入

観光用（歴史周遊観光）
住民用（車を所有からシェアに）

既存の都心型にはない、
新たなサービスの構築が必要



徒歩圏内と自転車圏内の比較



旧東海道の交差点から徒歩5分、10分、15分移動圏内、



同交差点から自転車5分、10分、15分移動圏内

出典：15cities | 15分・15kmマップ <https://www.5656map.jp/15cities.html>]

課題解決に向けた検討体制



地域共創シンポジウムにおける成果報告

発表資料

『日本遺産 有松』の まちづくり

2024.1.27

第1回地域共創シンポジウムまちづくりリレートーク

合同会社ありまつ中心家守会社
コミュニケーションマネージャー 武馬淑恵

有松のまち

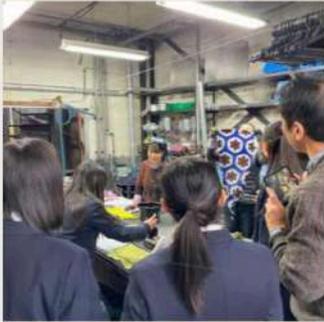


名古屋駅から電車で約20分

2016年 国の「重要伝統的建造物群保存地区」に認定

2018年 藍染が風にゆれる町として「日本遺産」に認定

有松の3つの宝



国の伝統的工芸品『有松・鳴海絞』
歴史的な建物がならぶ『東海道の町並み』
名古屋市指定文化財の山車が巡行する『有松天満社の秋季大祭』

有松周辺の観光資源



有松の地域交通課題

JR線に向かう有松からの
市バス路線が少ない

緑区巡回

徒歩で平部⇄大高駅・南大高駅

名鉄で鳴海駅⇄大高駅・南大高駅



有松の地域交通課題

駅前にレンタカーがない

有松駅：なし

鳴海駅：タイムズカーシェア

大高駅：タイムズカーシェア

南大高駅：なし



課題解決に向けた取り組みの方向性

コインパーキングを活用した
公共交通機関をつなぐ
新たなモビリティの導入

観光用（歴史周遊観光）
住民用（車を所有からシェアに）

既存の都心型にはない、
新たなサービスの構築が必要



徒歩圏内と自転車圏内の比較



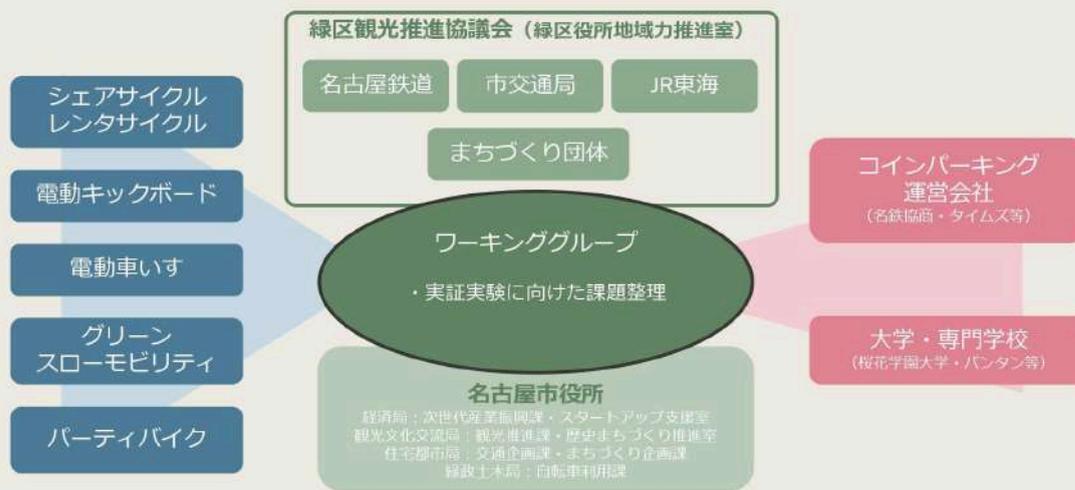
旧東海道の交差点から徒歩5分、10分、15分移動圏内、



同交差点から自転車5分、10分、15分移動圏内

出典：15cities | 15分・15kmマップ <https://www.5656map.jp/15cities.html>]

課題解決に向けた検討体制



人材育成のためのカリキュラム作成

まちづくりリーダー育成と共創による 回遊性向上プロジェクト

③人材育成のためのカリキュラム

2024年2月

合同会社ありまつ中心家守会社

求められる人材

- 発信力
- 共創を促すことができる柔軟性
- 多様な団体・企業との調整力

↓ 有松での展開方針 ↓

- ①対象となる人材の発掘
- ②発信力強化に向けた取り組み
- ③外部・内部人材の交流機会創出

①対象となる人材の発掘

- 外部人材
 - ・ヴァンタンヴィーナスアカデミー（インフルエンサーコース）
 - ・国際ファッション専門職大学
 - ・桜花学園大学（国際学部国際学科）
 - ・名古屋芸術大学（テキスタイルデザイン） など
- 内部人材
 - ・有松まちづくりの会
 - ・有松あないびとの会
 - ・有松絞商工協同組合
 - ・有松商工会
 - ・有松天満社文額講
 - ・NPO法人コンソーシアム有松
 - ・町内会、区政協力委員会 など

②発信力強化に向けた取り組み

- 発信する機会となるコンテンツづくり【外部人材向け】
 - ・有松絞りまつり
 - ・有松ゆかたまつり
 - ・名鉄特別きっぷ「秋の有松めぐり」 など
- 発信するための技術・技法の講座【内部人材向け】
 - ・写真撮影講座（スマホ、一眼レフ）
 - ・SNSやWEB活用講座 など

③外部・内部人材の交流機会創出

- 緑区観光推進協議会 ワーキンググループの発足に向けた検討
 - ・ 緑区役所地域力推進室との調整（趣旨・方向性）
 - ・ 候補人材へのアプローチ
 - ・ 開催準備
 - ・ 名古屋市観光文化交流局との連携
 - ・ シェアサイクル事業社との連携

- moss ARIMATSU（モス アリマツ）での定期的な交流会
 - ・ レンタルスペース、レンタルキッチンを活用
 - ・ 趣味や興味ごとの自発的な「部活動」を創出

年間スケジュール（案）

